（昭和46年7月30日発行　第三種郵便物認可）　第720号

本紙は女性による平和と平等を推進します

回覧

発行所
㈱全国婦人新聞社
〒160 本社　東京都新宿区西新宿3-7-28　宝幸西新宿ビル
電話 03（343）1846代表
振替口座　東京172320
〒543 支社　大阪市天王寺区勝山2-14-6-8
電話 06（771）7415代表

全国婦人新聞

ご購読料
1年　3,800円
（郵送料とも）
現金・切手・振替で前納
（月3回発行）
10日・20日・30日

うすくちは心もち　控えめにお使いください
東
ヒガシマル醤油
＊醸造元　兵庫県竜野市　ヒガシマル醤油株式会社

生活防衛に行動の輪を

空前の規模・全国消費者大会

第二十二回「全国消費者大会」が、十一月十日、十一日の二日間、東京で行われた。一日目は「物価と税金」「食生活と食糧」「有害商品と環境汚染」など、六分科会が各会場に分れて開かれ、二日目は午前中に全体集会が日比谷公会堂で。午後、場所を日比谷野外音楽堂に移し、「11・11食品添加物の規制緩和に反対する食品衛生行政の充実強化を求める中央総決起集会」が開かれた。消費者大会の目玉は、内外の圧力に屈した形で規制緩和された食品添加物の問題、公共料金・独占価格の不当値上げや大型間接税などの増税問題だ。第二分科会「食生活と食糧」では、乳等省令〝冷蔵〟規定撤廃に対する動きに対して、「絶対はずすべきでない」と「はずしてもいい」に別れ論争。議長が立往生きせられる一幕もあった。これ等を踏まえ主催者挨拶で、大高修一さん（高物価重税反対中央実行委員会事務局長）は「内外ともに厳しい状況の中にあっては、さまざまな考え方、意見が運動の中に持込まれるが、毎年のスローガンにある様に、平和といのちとくらしを大切にする政治を実現させるための運動が原点であり、方向である。意見の違いはねばり強く話し合い、統一した運動、行動の積み重ねこそが、消費者運動の力となり、大きな輪を全国に広げる根元となる」と意識、運動の統一を呼びかけた。

消費生活じわじわ

公共料金・添加物など監視

基調報告

全国各地から集まった参加者約四千人を前に、大野省治大会事務局長は、次のように基調報告を行った。

東西の軍事的緊張は一触即発の様相があり、国内は田中有罪実刑の判決が出たにもかかわらず議員をやめようとせず、国会は空転。そんな中、アメリカのレーガン大統領が訪日。わが国に対しアメリカは、輸出の自主規制・削減と、農産物の輸入拡大措置に加え、軍事費負担の増強を迫っている。

「いまこそ日本の消費者は、安全で健康な生活を押しすめてくれる政治を求めていることを、ハッキリ証明しなくてはならない」

償還期に入った百九兆円もの赤字国債。その解決のため、健康保険制度の改悪、文化教育費や子供のための諸措置の後退など、民生関係支出の圧縮がすすめられている。

勤労者の生活実態をみると、五年間で実収入二三・三%の伸びに対し、税金や社会保険料は四八・八%にも増大している。

間接税は一家族一カ月平均一万七二七一円（五十八年七月・都民生協調べ）で、大型間接税が導入されれば、さらに拡大されることは明白。

さらに、産油国がこの春、原油価格を一バーレル当り五ドル値下げしたにもかかわらず、通産省は消費者価格を値下げするどころか、ガソリンなどの値上げを承認しているのだ。

同様に、電力、ガス料金の引下げもされないまま、収益を留保させようとしている。そして、水道料金、高校入学金と授業料、入浴料金などさまざまな地方公共料金は値上げの方向ですすめられている。

「中央・地方を問わず消費者行政分野の切り捨てや圧縮がすすんでいる。消費者生活をないがしろにした政策を許すことはできない」

一方、経団連は検査業務の縮少、食品安全を監視する体制を弱体化させるような、輸出入に関係する規制の緩和措置、独占禁止法の改正などを打ち出した。

「これは、消費者が長い間努力してきた食品などの安全確保の願いを踏みにじり、独禁法を後退させるべきもの」

こうした国内・外の情勢と闘うため〝消費者は自主的な組織を強め、権利確立をめざして共同行動を広げよう〟と訴えた。

これから取り組むべき問題をして、各種公共料金の不当性をチェック。食生活を見直すとともに、国内での食糧自給率の向上を働きかける。食品添加物の規制緩和に反対。医療や年金制の改悪、後退に反対。子どもの未来のため、平和教育と健康文化。消費者センターの切り捨てをくいとめよう等があげられた。

賛否の論争を越え

〝田中辞任〟を特別決議で

分科会報告

物価と税金

NHKの世論調査でも、六〇%の人が、生活へのしわ寄せが目立つと答えた、第二次臨時行政調査会の〝行革〟が国民生活にどのように影響を及ぼしているかを、各課題を通じて論じあわれたのが今年の特長。

物価問題では、独占物価、公共料金は、政府の主導によって大幅に着実に値上げされているし、原油価格が値下げされた石油すら、国民生活に還元されていない。国民生活優先に還元させる運動をするとともに、政府などに提言できる提言能力のある消費者運動をすべき。その基礎データとなる〝家計簿運動〟をさらにすすめるとともに、調査学習活動を強めるよう等、十項目を決議した。

食生活と食糧

①食生活の問題②食糧の生産と輸入自由化③食料の流通と価格④生産者と消費者の交流の四つのテーマで自由討論が行われる。

食生活向上のためのグループ活動の具体例、無添加食品の開発、食べ物を中心にした生産者の立場、消費者の立場などが発表された。

論争となったのはLL牛乳、〝要冷蔵〟の撤廃の動きについて。日本の自給率を高める運動の中で、酪農を守る上でも反対すべき、に対して、一既にそうは言えないとする賛成派とに分かれた。

相方の中間を取って出された運営団体からの決議案「新鮮な牛乳が沢山飲めるよう、日本の酪農を守り、発展させる施策を講じさせよう」に対し、反対派が強く抗議。「有害商品と環境汚染」の分科会でも同じ問題について議論が闘わされたが「この問題は、さらに真剣に議論すべき場が必要」として、一つの課題として残された。

有害商品

食品添加物の規制緩和反対の一千万人署名を成功させ国会請願を採択させよう、食品公害の被害者救済制度の実現、食品衛生行政の充実強化、消費者、国民本位の食品法制の実現、安全な水道水の確保、農薬の規格、基準緩和をやめさせよう、などの食品関係の他に、環境行政関係、合成洗剤、タバコなど有害商品に関する決議がなされた。

医療と年金

問題となる改悪ポイントをあげると――医療では①本人の給付率（現行十割）を八割に引き下げ②別室を自己負担に②高額所得者は公的な医療保険制度の対象外とする③医療行為のガイドラインとして「医療標準」を設定する（診療抑制）など。

年金では①給付水準（年金額）の引き下げ②保険料を二倍以上に値上げ③老齢年金の支給開始年齢のひきのばし④抗内労働者、船員などの支給資格十五年（一般二十年）を廃止⑤厚生年金の十五年特例老齢年金の廃止⑥遺族年金の改悪（四十歳以下子無し未亡人には遺族年金を支給しない）⑦標準報酬下限の大幅引上げなど。

この様に社会保障、福祉の制度が重大な危機にさらされている。

これを踏まえ、同分科会は、医療や年金の危機を地域の人たちに知らせる、両方の抜本的改悪に反対し、安心できる制度につくりかえるための行動について決議がなされた。

子どもの未来のために

学校教育の中で、消費者教育の分野を確立させる。子どもにとって良い環境づくり、安全でバランスのとれた食品、教育費の問題などが話し合われた。

消費生活と消費者行政

五つの柱をたてて、意見交換を行った。

①消費行政を後退させないための運動と行政のあり方②サラ金被害の実状と対策③子どもの消費者教育の確立と、悪徳商法からどうするか④消費者条例の話を促進するために⑤情報公開について。

①の消費行政では、消費者行政の監視を強め消費者の意見が反映される制度を確立。そのために各種審議会委員会への消費者団体代表の参加を保障させることが決議された。

その他は、情報公開法ほか制度化をめざすことは重要であり、その運用や活用について消費者運動がかかわることで制度が活きること等が話しあわれた。

また消費者裁判は、消費者の権利確立をめざす重要な役割を果していることも確認しあった。が、消費者行政専管組織の整理・縮少、予算の削減と消費者行政の行く末は厳しいことも語られる。

各分科会からの報告、決議採択の後、特別決議として、田中角栄元首相が直ちに議員をやめ政界から引退すべきことを要求。また、行政改革は金権腐敗政治の根源を絶つことを最重点とすべきであることを提案、採択され終了した。

許せない規制緩和

各党が連帯のあいさつ

食品添加物

「11・11食品添加物の規制緩和に反対し食品衛生行政の充実強化を求める中央総決起集会」が十一月十一日東京・日比谷の日比谷野外音楽堂で開かれた。

同集会は添加物に反対する個々の消費者の運動を一つの大きな力に結集しようというもので、当日は消費者、婦人、生産者、労働者等の各団体、九〇組織が参加。集会の成果を全国各地に持ちかえり、運動を発展させるバネにする方針。

この日、会場には、約四〇〇〇人が参加、食品添加物の十一品目許可、十四品目の使用枠拡大に、怒りの声をあげた。

開会に先立ち、主催者側を代表して、挨拶に立った、日本生産協同組合会の中林貞男さんは「食品の安全は、人間の生命に重要なこと。最近、年配の婦人たちが、自分の嫁や娘の出産の際、まともな子どもが生まれるようにと神にかけて祈っているという話をよく聞くと前置き。貿易の自由化、農産物の自由化という外圧で、厳しい闘いをしてきたが、安全性がくずされようとしている。生活が脅されているという危機に立って、食品添加物の緩和反対の運動を強め、拡大し、一九七二年に国会で満場一致の、食品添加物強化としないようにしようという決議を破られないようにしよう、と語った。

基調報告では、今年に入ってから、明確な動きを見せ始めた食品添加物の使用枠拡大、使用許可、BHAの使用禁止延期についての報告と合わせ、一千万人国会請願署名、請願署名の紹介議員とし国会議員の獲得して、学習・宣伝活動を強めることを活動の柱とすることが確認された。

各政党からの連帯あいさつは、社会党、公明、共産、社民連、民社、新自由クラブの各党から。参議院議員の丸谷金保さん（社）は、「アメリカのように、食品表示の義務が厳しく、消費者を保護する法律があり、どんな小さな町にも、自然食品を扱う店があるなら、国民に選択の自由がある。日本はその自由がない上に、食添の緩和をしたら大変なことになる。許可基準の見直しを行うなど、断じて許せない」と。

四党からも、アメリカのいいなりになって、国会決議をくつがえすなど、言語同断、不必要、安全でないものは禁止、相乗毒性の検査も欠かせない、と。

衆議院議員の管直人さん（社民連）も「みんな一つの地球に住んでいる。世界の消費者、市民が一致していかなければならない、逆行は許してはいけない」と述べた。

各界からは、婦人団体を代表し、全国地域婦人団体連絡協議会、労働団体は全日本自治団体労働組合、生産者団体は、全国農業協同組合中央会、消費者・市民団体は日本青年団協議会、地方組織として、東京実行委員会が、決意表明。

全地婦連副会長の加瀬てるさんは「三才の子どもの肝臓が膨れあがったり、三〇歳代の働きざかりの人が、ガンで死んでいるのは、食添が胎児にも影響を与えているからではないだろうか。消費者の一人一人が通帯し、規制緩和を狙はるために、政治に反映する貴重な一票を大切にして、政治の流れを変え、人間の尊厳を守っていくことが根幹だ」と、決意を述べた。

この後、日米政府への要請文、大会アピールが採択され、会場から、常盤公園まで、デモ行進を行った。

☆　☆

中央総決起集会

婦人手帳

☆☆☆　清潔な政治、金権腐敗の政治家一掃を訴え続けた市川房枝さんがたくなったのは五十六年二月。その市川さんが婦人参政権獲得を記念して設立した財団法人「婦選会館」（東京都渋谷区代々木二丁目）がこの十五日から「市川房枝記念会」と名称を変えて新たな出発をした。まるで計算したように、戦後十六回目の衆院選挙の日程が「十二月三日公示、十八日投票」と決定した。争点は元総理大臣・田中角栄によって展開された「金権政治」の批判、打破、政治倫理の見直し、となるが市川さんの遺志継承を改めて心に誓いたい。女性の決起をうながす無形の何かを信じる。

☆☆☆　いまにして政治の流れを変えないと、日本の行末はヤミだ。今度の選挙はその意味で非常に重大である。古色蒼然たる政治家たちが、いつまでも権勢にしがみついて放そうとしない。そのために金に物を言わせる――こうした状況から脱出するために、どの候補に投票すればいいか、国民の一人一人が自分の問題として真剣に考えねばならない時だ。一見繁栄の中にあるようで、庶民の暮らしは確実に圧迫されている。立候補予定者の顔ぶれをみると八百三十一のうち、女性は二十七人。少ないなあ。引退議員と新人候補がふえているのは新しい局面打開の手掛りとも思えるが。

☆☆☆　田中派とされる候補は八十四人もいるそうだ。大方の予想をみても、結果は田中派がふえるという。どうしてだろう。有罪判決が下されたあと、田中元首相は田中派議員に電話を入れて呼び出し、一人百一五百万円単位の金を渡した。「選挙の軍資金か」と聞いたら「迷惑料だ」と答えたそうだ。この期に及んでなお金にモノを言わせようとする田中というヒトはどんな感覚の持主なのだろう。そしてそのヒトに後ろ盾になってもらって今後の選挙に八十四人も立候補する。考えてしまう。個人としては立派でもそれだけで政治的信念に疑問を持たざるを得ないと私は思うのだが――。

☆☆☆　お詫び　十一月二十日号は休刊いたしました。読者の皆様に報告し、お詫びいたします。

自分の近くで楽しめる遊びの場

――東芝科学館――

分かる科学への誘い

触れ動かして知る展示法

科学とは、驚異である。そして、私たち人間が、その驚異にたずさわり、生活していることを、しみじみと感じる場所である。

ここ「東芝科学館」（佐藤繁館長）は、電気からエレクトロニクスまでの高度な技術を、わかりやすく、おもしろく紹介し、親しんでもらおうという趣向。

〝科学〟とか〝電気〟ということばを聞いただけで、拒否反応を示す人も多いようだが、そんな人でも安心して楽しめる。

正面を入ると、ファンタジーの森。四色にかわる光の森である。音波でつくられた水滴が、池に波紋を描く。まるで、深閑とした森の奥深くで、静かに湧き出る泉のようである。

これらは、最新のエレクトロニクス技術によるものだ。

展示は、一階～三階まであり、レーザー、エレクトロニクス、超音波、超LSI等々、ふだんそのことばを聞いただけでは、さっぱり訳のわからないものばかりだが、不思議と、何に使われ、どう働いているのか、わかるような気がしてくるのだ。

それもそのはずで、同館は、見学者が、展示物をじかにさわったり、動かしたりする中で、理解してもらうという、動態展示の方法をとっているからだ。

同館は、昭和三十六年、東芝パネル説明も、中学生程度に合わせてある。

これをフォローして、説明に当たるのが、同館のコンパニオンの女性たち。来館者は、老若男女さまざまで、専門家や学者といった、ハイレベルの見学者も訪れるが、相手なりに合わせての説明も行ってくれる。

来館者の六〇%は、小中高生。大人、東芝科学館として、新しく生まれ変わったわけだ。

原理よりも、わかりやすくすることを主眼にしているため、苦手と言ってはいられない時代なのである。

超LSI（大規模集積回路）の世界がどんなものなのか。本を読んでもわからなくても、トランジスタとの比較、二五万倍の設計図を見ていく中で、驚異の世界に一歩踏みこんで、体験することが可能だ。

また、同館には、研修室やホールもあり、申し込めば、無料で利用もできる。

利益追求のみでなく、地域社会との結びついていかなければならない――こうした姿勢をもうかがわせるところでもある。

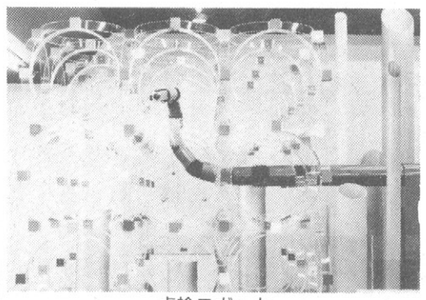
「東芝科学館」　〒210 川崎市幸区小向東芝町一番地　☎〇四四―五一一―二三〇〇（予約専用）・〇四四―五一一―二一一一（大代）内線二五五九。

▽交通…国電川崎駅下車、東口から市営バス3324番・東急バス29番で、小向下車。

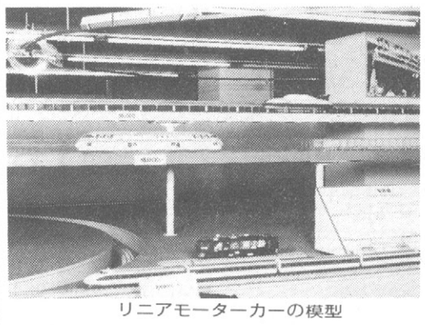
▽開館時間…午前九時～午後五時。

▽休館日…日曜日、祝日・指定土曜日、特定休館日

▽入場料…無料。



点検ロボット



リニアモーターカーの模型

点検ロボット登場

今、同館での展示のメインは、点検ロボットとホームコントロールシステム。

ホームコントロールシステムは、コンピューターが、家庭生活に入ることを想定したモデルルームで、マイクロコンピュータが人との対話で、部屋の照明や窓の開閉、火事や侵入者の警告などを行うしくみ。

点検ロボットは、狭い、曲がりくねったところでも、ぶつかったりせずに、入っていく。人間の入れない、危険な場所などで使われる。

この他、リニアモーターカーの模型と、これに使われる常電導電磁石での浮上テスト、スピードガンや、人力発電と、体験することを合わせて、理解できる工夫がなされている。

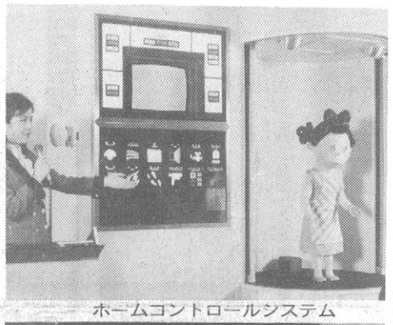
また、TVでも紹介された、五万Wの電球も、ここにある。

史料室には、昭和二十九年に造られた、電子計算機の第一号や、昔の冷蔵庫、TV、洗濯機などの展示も。

近年、コンピュータ部門が進歩し、エレクトロニクスは、身近なものになっている。むずかしい、苦手と言ってはいられない時代なのである。

超LSI（大規模集積回路）の世界がどんなものなのか。本を読んでもわからなくても、トランジスタとの比較、二五万倍の設計図を見ていく中で、驚異の世界に一歩踏みこんで、体験することが可能だ。

また、同館には、研修室やホ



ホームコントロールシステム

ファンタジーの森

便利な贈りもの。
伊勢丹の商品券
全国主要都市に共通です。日本全国をひとつに結んだ、伊勢丹の商品券。お知り合い、お友達などへの贈りものにとても便りです。
伊勢丹
新宿／吉祥寺／立川／松戸／浦和

子ども世界の本
自分で読むなら小学一・二年から
全用／全国学校図書館協議会選定図書
斎藤一／作田忠一・え　どようびはたんじょうび　定価九八〇円
浦野和子／峰村りょうじ・え　のんびりほいくえんのまこちゃん　定価九八〇円
まさきえみこ／作田忠一・え　じゅんちゃんと7まいのパンツ　定価九八〇円
堀内純子／黒田祥子・え　ひなの星スピカ　定価九八〇円
親子で楽しめる月刊童話雑誌「子ども世界」
けやき書房
〒181 東京都三鷹市井の頭1-7-12
TEL 0422(47)6171

平和マンガシリーズ
ぼく日本人なの？
ボクちゃんの戦場
●手塚治虫／文　●善元幸夫／協力　●遠藤てるよ／絵　●定価1,200円
嵐吹きすさぶとも
●作画／水野英子　木内千鶴子　山岸涼子　汐見朝子　●定価800円
漆原広写真集
地域に育つくらしの中の図書館
目で見る〝図書館活動の現状〟
●B5変型／112頁　●定価2,300円
ほるぷ出版　〒160 東京都新宿区新宿2-19-13 TEL 03(354)7031(代)

サンリード〈創作童話シリーズ〉最新刊！
風をつかまえろ！
ふしぎな帆船ピルグリム号
小学中級から　定価各1200円
不思議な世界が大好きな子どもたちにおくります
海がぼくをよんでいる
伊東信・作　中村ヒロシ・絵
病室から消えた少年と帆船は……どこへいったのか？突如現われた帆船ははたして幻なのか？足のわるい少年タモツがためす力と勇気。
「毎日新聞」他各紙誌絶賛の感動作！
生き、たたかう人のやさしさが心うつ作品
かぜのおくりもの
飯田栄彦・作　長谷川集平・絵
サンリード　京都市右京区西院西貝川町75

大切な子どもたちに
読書で豊かな心を
■くふうがいっぱいの楽しいこま割り絵本！
きのいいサンタ
さとうわきこ・作絵　定価980円
すてられたおもちゃや、宿なしの動物たちを招待する、心優しいサンタさん。
■両親の離婚で揺れる少女の心
Cアドラー・作　足沢良子・訳　定価980円
両親の離婚という大きな苦しみのなかで、人を理解することを知り成長していく少女。
銀の馬車
金の星社　東京都台東区小島1-4-3　〒111　☎03-861-1861

子どもの詩の本
◉子どもの声に、耳をかたむけてみませんか。
灰谷健次郎・編　宮崎学・写真　■「きりん」の詩名作選＝1
お星さんが一つでたとうちゃんがかえってくるで
灰谷健次郎・編　宮崎学・写真　■「きりん」の詩名作選＝2
「ふぁあん」「ふぁあん」宿題せんならん
灰谷健次郎・著　坪谷令子・絵
せんせいけらいになれ
鹿島和夫・編　灰谷健次郎・対談
一年一組せんせいあのね
定価各940円
理論社　東京都新宿区若松町15-6

好評発売中！
●いま、感動を呼ぶ話題の本!!
ひとすじの道〔文芸版 全3巻〕
丸岡秀子
このほどご要望に応えて一般読者向けに文芸版を刊行しました。いまマスコミ各紙から〝大人と子供をつなぐ本〟〝子供の理解に役立つ本〟と絶賛され、話題を呼んでいます。
定価各950円
なぜ、ぼくだけをいじめるの？
ベリイマン・写真と文／ビヤネール多美子・訳
〝いじめ〟は、なぜおこるのか？　スウェーデンと日本の子どもの〝いじめ〟の実態と底流を三元的にさぐる。第二部「まことくんの話」は斎藤次郎・解説。
定価2200円
東京新宿砂土原町　偕成社　電話(03)260-3221

体験 佐渡のくらし ⑱

金沢近代研究会 清水すみ子

稲刈り済んで秋の夜

やはりプロは違う

小さな田ほどやはりていねいで、ゴミ一つ残らず、なぎ、ていねいに刈り取っていく。

それから十日後、四日ぶりに、やっと、ほっとする日がやってきました。

「さあ、みんな集まって、それぞれの仕事にかかるぞ」と、生産組合の長の号令がかかります。

「ほっとする間もない。ほら、ぼやぼやしていると、あっという間に刈り取られてしまうぞ」

私は、ちょっぴりあせりを感じました。

「ほっとする間もない」——稲刈りは、まさに、生産組合の長の号令どおりでした。

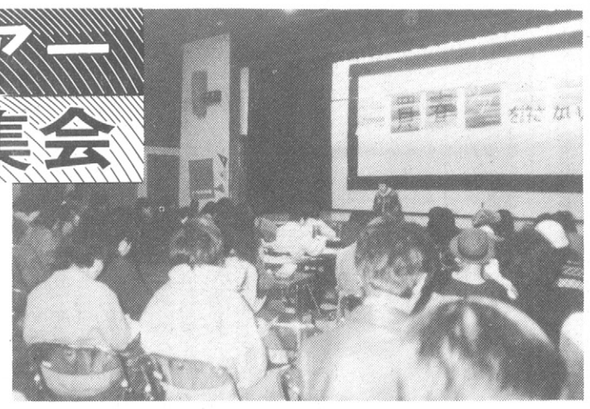
一人の男が、鎌を手に、ザクザクと、稲を刈っていく。

その後ろから、女たちが、束にしていく。

その後ろから、男たちが、束を、ハザ掛けしていく。

ハザ掛けは、ハザ木に、稲の束を、ていねいに、ていねいに、掛け

国内版買春ツアーを許さない集会



「83国内版買春ツアーを許さない集会」が、二十三日、アジアの女たちの会主催で、東京渋谷の千駄谷区民会館で開かれた。日本人男性による東南アジア各地への〝買春ツアー〟は、もう周知の事実だが、さらに近年は、発展途上国の女性たちが、日本に〝輸入〟されセックス産業に奉仕させられている。その数も年間十万人に達しているのではないか、という恐ろしい推定もある。こんな事態を何とかしたいという集会だが、〝国内版〟をメインテーマにすえた集会ははじめて。

〝輸入買春〟10万人

国境越えた女の怒りを

会は、まずスライド映写、アジア各地への日本男性の買春観光から、数多く女性が〝輸入〟されている現状を見せる。

ついで、北沢洋子さんの講演「第三世界と日本」。日本の工業製品の洪水のような進出のもと貿易が全く赤字に陥っている東南アジアの国々で、赤字を埋めるために政策として〝観光(買春)〟が奨励されている現実。日本が〝癒一無〟技術立国をめざす中で、アジアの国々の小工場がつぶれ、日本国内でも、OLの需要が減る、という大問題が起っている。売春問題を考えることをきっかけに、日本がこれからどう進むべきかを考えなければいけない……」

信じられない実体

ジャーナリスト塚本由美さんの〝輸入〟女性たちの実態を取材しての報告はショッキングだった。「最近の台湾、タイ、フィリピン、韓国からの女性入国者は年間三十二万人にのぼり、75年の八万人の四倍にあたる。少なく見ちもって十万人以上がいわゆる〝輸入女性〟ではないか…」に会場はため息。入国の場合、芸能人のビザが観光ビザで入り、短期で帰国するので、年間十万人といっても、入れ替り立ちかわりではあるが…。

老芸妓自殺の裏に

全体の数だけいってもピンとこないが、一一〇番に通報があり、駆けつけてみると、その前年も老芸妓が自殺している。原因は借金と孤独という。土浦には芸者は三十人くらいしかいないところ。これは何かある、と歓楽街を歩き出したところ、出会ったのはアジアの女性たった。80年5月に土浦を舞台にタイ女性の人身売買事件があり、経営者八十九人が検挙されたが、タイ女性一人が、五十万円で売られていた…」

「日本で女を受け入れるプロダクションがあり、フィリピン、タイなど現地のプロダクションから組織的につれてこまれる。〝セリ市〟まであるという。金も、日本のプロから現地のプロに送られ、本人は現金を手にしていないことが多い。法務省の統計でも、滞在中の報酬は十～十五万円が一番多く、三十万円未満が全体の八〇%、全くもらっていない人も二九%いる」

さらに塚本さんは、十一月千二日、神戸、金武町のキャバレーの火事でフィリピン女性二人が焼死した事件（内地ではほとんど報道されなかった）にふれる。

「キャバレーの経営者は町議であり、逃げ遅れたのは窓に鉄格子が入っていて出られなかったため。死んだ女性の一人は二十二歳といっていたが、本当は十七歳一未成年であることもわかった。しかしことはヤヤムヤになり、遺体は送り返された。…」

パネルデスカッションから

続いてパネルディスカッションに入る。パネラーの修道女・伊従直子さんは、〝輸入〟されている女性十人以上に接触できた。その一人の例を語る。会った時は十五才、十才くらいにしか見えなかった。シンガーとして契約、五ヵ月ほどの間に五、六ヵ月も店をまわされる。大都会ばかりでなく群馬、などもある。一食しか食を与えられなかった店。1DKに布団四組で十人が押しこめられた。しっかりした少女で、あまりひどいとプロダクション（名古屋）に電話で抗議、結果として店を転々。五ヵ月くらいたったころ、もう子供っぽい彼女でなく、すっかり女になっていた……。

遠野はるひさんは、ここ数年基地周辺売春地帯を調査した経験から、売春の取材によって、国の侵略がみえ、国が売春を管理していると痛感したという。

フィリピンの基地売春の町、オロンガポ、ここは近ごろ日本もよく〝進出〟して有名。ここで最近九歳から十四歳の五人の少女性病患者をかかえる売春組織が摘発された。十四歳の少女は、父は中東に出かせぎに行き消息不明。見つかったときは歩けない状態だった。十三歳の少女は役人に強姦された。九歳の少女は、栄養失調で五、六歳にしかみえなかった。米兵の家につれて行かれ、一八〇キロ以上の長身の米兵に強姦され、泣く泣く首を締められたという。この組織はフィリピン女性が経営しており、彼女は役人と関係がある。この少女たちは市長に直接訴えされ監禁された。米兵は本国に送還されあとはわからない。

国境を越えた怒り

三番目のパネラーは矯風会、売春問題ととりくむ会事務局の高橋喜久江さん。「十年前の今ごろ、ソウルにいた…」。〝キーセン観光を知っていますか〟の韓国教会女子連合会の怒りの告発に、実際目で見ようと韓国飛んだ高橋さんたちは、日本人に〝男性〟観光客たちで満員のホテルに仰天し、そのホテルから早朝、そそくさと帰って行く〝少女〟たちの姿に、心の底から恥ずかしい思いになった。それから十年一。問題はよくなるどころかいま、出国者の問題から、来る女性の問題までに。

さらに「売春問題ととりくむ会」などで問題にしている現代の公娼のトルコ風呂のことにふれ八年前から法改正をいいつづけているが、残念ながら与党自民党の婦人議員の同意を得られない。トルコ風呂は一店月十万円ずつ、年間十二億円の政治献金をしている。売春を容認するマスコミがある。売春は女性べっ視の社会構造から来ていると二十年余りの活動から問題提起。

根本に女性べっ視

最後に優生保護法改悪阻止連合会メンバーである石塚友子さんが、別の視点から売春問題を斬る。「優生保護法の問題にとりくむ中で、中絶禁止問題は大きな流れの一部。女の性と生を政府の意図がよくわかった……。女は家庭を守り、稼ぐ男は売春でリフレッシュ。男の活力を支えるのが売春なのだ。こうした構造を見すえないで、ただつれてこられた女性が可哀想、ではダメ」

これらのパネラーの発言を受けて会場からの発言があった。参加していた、井田恵子弁護士は日本弁護士連合会でトルコ風呂問題を調査した経験から「トルコ風呂の一番の問題は、売春を公認していることだ。しかもはっきりした管理売春である。現行の売防法で処理できるのに、警察が摘発していないところに問題がある。来年は差別撤廃条約を批准するための準備の最後の年になるが、売春は条約第六条に明らかに反することなのに売春関係の法律の整備は全く考えられていない…」と問題提起。高橋さんも「とりくむ会も、十月三十一日、総理府と外務省に条約批准にあたり、売春問題を忘れていませんか、と要望したばかり。来年三月東京で開かれるアジア太平洋地域婦人会議に、セックスツアーの事を議題にするよう要望している」と発言。

世界の半分である女性が、この問題について積極的に発言し売買春を生み出す社会構造をかえようと話しあった。

私たちの平和博物館を

ピース・タイル運動が発足

〝子どもたちに世界じゅう披爆の記録を贈る会〟（岩倉務代表幹事）は、民間の平和博物館を建てる〝ピース・タイル運動〟をスタートさせた。

博物館は、核兵器問題、平和と戦争に関する映画・ビデオ、写真、スライド、絵画、彫刻、ポスター、歌曲、書籍などさまざまな情報、物品資料などの収集、保存、展示、上映、一般利用、普及、そしてこれ等の国際的交流を行う拠点になる。

一般有志から二口一、五〇〇円の〝平和基金〟を寄付してもらい、五万口で財団法人の認可申請、五万口に達した段階で、博物館設立をスタートさせる。

基金を寄付してくれた会員は設立者の一人として、博物館内に名前を残すことができる。

博物館ができるまで、都内二カ所（港区の平和会館、渋谷区公園通りの山手教会）にギャラリーを設け、十二月六日にオープンする。その関連企画として十二月一日、西武劇場（渋谷パルコ・パート1／9階）で「10フィート運動映画祭」を行う。

行を語る。

「相談の中に出毒問題があり、まとめると七つほどになる。有機溶剤、覚醒剤、麻薬、睡眠薬、鎮痛剤・トランキライザー等の厚生新薬、大麻、アルコールで子どもに多いのはシンナー。これは、身体に及ぼす影響も大きいが、集団で密室で吸うので窒息死する事がある。また、他の非行に走る導火線ともなっている」

社会が大きく変化しているにもかかわらず、親たちは自分の貧しかった思春期を子供に当てはめて考える。戦中、戦後の貧しさ、ひもじさを子供に味わせたくない―そういう思いで物質文化を築いてきた。物質は豊かになったが精神的に貧しくなっているのがいまの日本。

親離れし、苦しみにたえる力をつけるのが思春期だが、親たちはそのチャンスを子どもに与えようとしない。

もう一つには、マンガ等から来るイメージ文化の中で育っているので、論理性に乏しい。感覚人間で、何でもフィーリングで判断する癖があるのだという。

「社会的な基本の決まりは、フィーリングで通用しない。横浜の浮浪者撲殺事件に、現在の学校、家庭、社会の病理が凝縮されている。人の命の尊さを知らないところに悲しさを感じる」

ある登校拒否児に、父親が一生懸命働いている姿を見せたが、それで解決するほど単純な問題ではないが、親の一生懸命な姿を見せることが、治療の始まりでは、と藤原さんは言う。

現代の非行を考える

興味と行動誘う学習を

初犯にはきびしい指導

〝生まれつき〟の非行はない

東京都児童相談機関連絡協議会

総理府（青少年と暴力調査56年）の調べによると、家庭内で暴力を振いたいと思ったことのある者は、中学生三八%、高校生古〇%。校内暴力については（警察庁調べ）五十七年度で、公立中一三・五%、公立高一〇・五%となっている。一方、犯罪白書（五十八年度版）によると、少年非行の検挙・補導者は三十二万八百二十八人で、特長は年齢化が進んでいることだ。何が子供たちを暴力、非行に走らせるのか。東京都児童相談機関連絡協議会は、このほど「現代の非行を考える」と題して、児童問題公開講座を江東区文化センターで開いた。子供の発達段階に応じた家庭での教育ができていないため、自己中心で抑制力に欠けて非行に走るのでは。いや社会環境が原因、と各立場から現場を踏まえた意見が発表された。

現在の教育方法の中で、成績のいい子も悪い子も、ほとんどの生徒が落ちこぼれ意識を持っているという。

「それは教師が学習というものを、どう受けとめ生徒にかかわってやるか、生徒をどういう長過程の中で、自我形成における問題をもっている。例えば同年代の子供と遊ぶ中で学ぶという体験不足などがある。

知的開発に焦点があてられ、受験のための、点数を取るため気憶させる学習指導ではダメ。

「子供たちが興味を持ち、積極的に行動していく、そんな体験を多くもたせ、その中で知的発達を促進させるような教育こそが必要」

非行問題の最初にあげられるのは、まず家庭機能の低下だが、白形忠夫さん（東京都墨田児童相談所長）は、「生まれつきの非行は考えられない」と前置きして――

親のレールでなく

幼児の頃から小学四、五年生までの、親の子育てが後のパーソナリティーを作っていく上でも大きな影響を及ぼす。非行に走る子供たちは、人間関係が育っていない。社会性が弱い、自主性に乏しいとうえ性がない。何か事が起きても適切に処理、解決する力がない。こうしたものを養い育てるのは家庭だと、家庭における教育の大きさを力説する。

昔は大家族で生活をしていたため、子供たちは、その中で自然に対人関係を学ぶことができた。核家族化し、小家族となり、母親の目が、手が必要以上に子どもに差し伸べられる。危険に会わせず、親の描いたレールに乗せるのが親の役目とばかりに躍起になる。結果は、子供の社会化を阻止している場合が多い。

まず家庭の正常化

「父親不在も一つの要因。父親からは権威と役割、つまり子供は社会化の基礎づくりを学ぶが、最近は物理的、精神的にも父親不在家庭が多い」

母親は夫への不満を、子供を構うことで解消しようとする。母親の過干渉は家庭全体の人間関係にひずみがある場合が多い。

白形さんは「家庭内の人間関係の犠牲者である場合が多く、非行から立ち直らせるためには、まず家庭の正常化から取り組まねば、根本から治らない」という。

大半の教師は、学校教育を知的な学習指導、受験準備というところに向けていると教師の在り方、学校について語った。

緑川尚夫さん（東京都立教育研究所相談部長）。

非行の子供を見ると社会性が喪失し自己中心性、せっな的に享楽を求め、集団で暴れても個になると弱い。主体性に欠け、暴れるのも付和雷同的。

教師としての問題

「こうした子どもたちは、成長過程の中で、自我形成における問題をもっている。例えば同年代の子供と遊ぶ中で学ぶという体験不足などがある。

知的開発に焦点があてられ、受験のための、点数を取るため気憶させる学習指導ではダメ。

「子供たちが興味を持ち、積極的に行動していく、そんな体験を多くもたせ、その中で知的発達を促進させるような教育こそが必要」

合う事。それをどう表現するかは教師の問題となってくる…と課題を残した。

悪環境をつくる大人

少年犯罪の五割が中学生。万引、自転車盗、オートバイ盗で、免許取得年齢以前の子どもたちから無免許。そして、事故へつながる。

「これ等の犯罪は環境が作りだすものだ」と言うのは、中村好勝（警視庁防犯部少年第一課少年対策係長）さん。

子どもたちを取り巻く環境が悪くなった事は、性風俗を見れば一目瞭然。ポルノ雑誌、ノーパン喫茶など性産業が盛んで、一般的な考えが、それを認容している。子どもは順応性が高く浸透するのも早い。

「安易な性交など、子供たちに悪影響もはなはだしい」と中村さん。

スーパーでの万引も環境に起因するところが大きい。商品とレジスターの距離が長く、途中でポケットへ…という気を子どもたちに起させるというのだ。乗って下さいと言わんばかりに、駅前に放置された自転車。こうした環境は大人たちが作ったものであり、有害環境の中で育つ子供たちこそ不幸だと、中村さんは訴える。

もう一つは、地域住民同士の相互連帯意識の欠如があげられる。何をやろうと他人の子には知らん顔する大人が増えた。

「ポルノ雑誌の自動販売機も、文句の少ない地域に業者は持っていく、自分の子に注意するだけでなく、環境を良くし、コミュニティの連帯意識を深めることが大切」と中村さんは、少年の補導から得た経験を述べた。

累犯者に目を配れ

二度あることは三度あるの言葉のように、一度罪を犯した子どもは、二度、三度の罪を犯す例が多い。犯罪を犯した子ども十人のうち三人が累犯者だと言われている。

SR-01 ¥5,000
サントリーローヤル キフトパッケージ

SPRT ¥3,400
サントリーリザーブ 化粧箱入

SO-50 ¥5,000
サントリーオールド[660mℓ]2本セット

SP-SO ¥6,600
サントリーリザーブ、オールドセット

お歳暮は、サントリー。

価格は標準的な小売価格／製造・販売サントリー株式会社